

川原氏の場合、チヌ釣りの主役はオキアミではなく配合エサ。



私のチヌ釣りスタイルは、非常にオキアミが少ないのが特徴なんです。半日の釣りだと、3kgもあれば充分ですね。なぜかというと、オキアミをチヌに大量に食わせてしまうと、腹がふくれて食いが持続しないと考えているからです。だからオキアミは少量にし、

ときにはスライスしたり、潰したりもする。基本的には配合エサに含まれている集魚成分の匂いや濁りを活用してチヌを寄せ、食いを立たせようというわけです。ですから私の場合、配合エサがチヌ釣りの主役というふうにいえるかもしれません。

「チヌパワースペシャルMP」を入れるのは、高いレベルでの集魚力を求めています。メインに配合されている高タンパクな「MPマキシマムプロテイン」酵母は、抜群の寄せ効果を発揮してくれるんですよ。食いを立たせる前に

まず「オカラだんご」は主原料であるオカラが水分を吸っていくので、全体的にだんだんとボソボソになっていきます。ですのでオキアミと配合エサ、海水を混ぜてしばらくしたら、再び海水を加えてやわらかくすることを覚えておいてください。また、その頃になるとチヌの食いは立っているので、私は濁りを重視するようになっています。ですから袋に残っている1/2の「オカラだんご」も混ぜるようになっています。

春

私の春のブレンドパターンは、「チヌパワームギ」1袋に、「チヌパワースペシャルMP」を1〜2袋、そして「オカラだんご」をまずは1/2袋に、オキアミを3kgというものです。

「オカラだんご」は水を加えると2・5倍に膨れる、濁りも強力な配合エサ。ですから、増量効果を求めてというのがブレンドの理由のひとつ。また、配合されたトウモロコシなどがヒラヒラと落ちていくので、そのルアー効果でチヌの興味をひくということも期待していますね。

チヌを「非常に頭のよい魚だ」という川原直毅氏。チヌ釣りは、その賢い魚を相手にした頭脳戦なのだといえます。その知恵比べに勝つために、氏はどのように配合エサを使いこなしているのでしょうか。

配合エサがチヌ釣りの主役！



川原 直毅 かわはら なおき

1954年生まれ、広島県広島市在住。四季を通じてチヌを専門に追い、卓越したチヌ釣り理論と実践には定評がある。瀬戸内、東北のウキフカセ釣りブームの立て役者である。

春のブレンドパターン(半日分)



チヌパワームギ
1袋

+



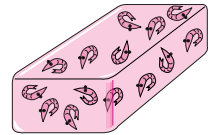
チヌパワースペシャルMP
1~2袋

+



オカラだんご
1/2袋(のちに1/2袋を追加)

+



オキアミ
3kg

刻々と変わる釣況に対応し、賢い魚を掛けたときの喜びは、ひとしお!



夏のブレンドは、「チヌパワーV10白チヌ」1~2袋に、「チヌパワースペシャル銀牙」1袋、それに「オカラだんご」1袋とオキアミ3kgというパターンですね。

「チヌパワーV10白チヌ」は、目立つ白さが特長の配合エサ。潮の流れが見やすく、チヌの視覚にもアピールできるのが魅力なんです。私の場合は、エサ取りの動きを見るために活用しています。

というのは、夏場は海面下4mぐらいまでエサ取りで湧いているんですが、

夏

配合エサとオキアミにつられてエサ取りはそれを追いますよね。そしてある程度まで追うと、また戻ってくる。私は、そのUターンしてくるタナを攻める基準にするんです。そこが、チヌの遊泳域だという考えなんです。そのため、白く目立つ「チヌパワーV10白チヌ」が重宝するというわけです。

なお、「チヌパワースペシャル銀牙」はグレエサのように高い拡散性をもち、重さの違う3種類の練りエサの粒やムギ、コーンなどが入っている配合エサです。ですから、宙層エリアに濁りをつくることを目的としてブレンドしています。「オカラだんご」を入れているのは、拡散性を求めています。

夏のブレンドパターン(半日分)



チヌパワーV10白チヌ
1~2袋

+



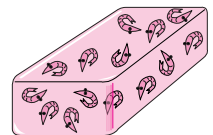
チヌパワースペシャル銀牙
1袋

+



オカラだんご
1袋

+



オキアミ
3kg

秋のブレンドパターン(半日分)



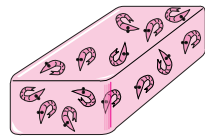
イワシパワーチヌ
2袋



チヌパワースペシャルMP
1袋

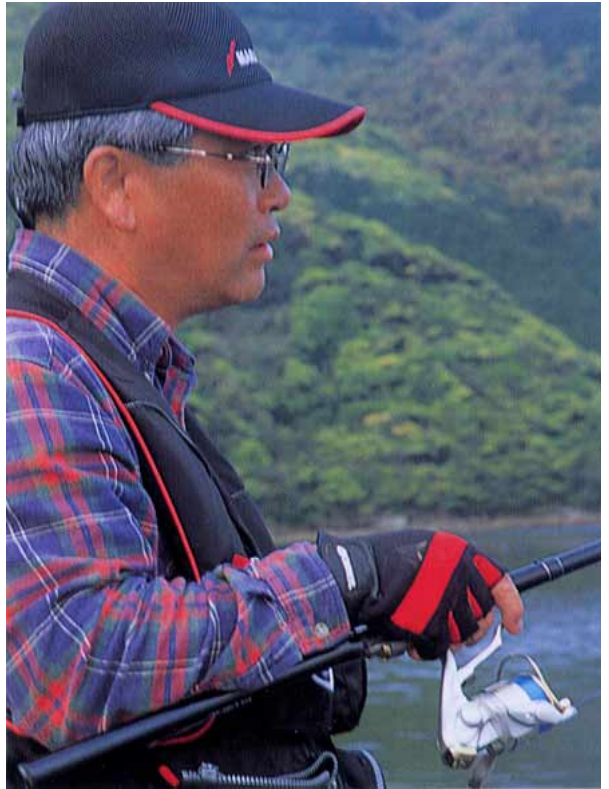


オカラだんご
1袋



オキアミ
3kg

ウキは、魚信を伝える大切な役割を担っています。
当然、ウキを見つめる眼差しは真剣なものに。



秋

「イワシパワーチヌ」2袋に、「チヌパワースペシャルMP」1袋、それに「オカラだんご」1袋にオキアミ3kgというのが、私の秋のブレンドパターンになります。

この時期は、晩秋になればさすがに水温は下がってきますが、それまではエサ取りは半端じゃなく多いんですね。そのために、抜群の集魚効果をもつ「イワシパワーチヌ」と、「チヌパワースペシャルMP」を中心としたブレンドで、とにかくエサ取りを釘付けにしてしまおうという作戦なんです。「チヌパワースペシャルMP」の紹介は先ほどしましたが、「イワシパワーチヌ」も「純正イワシ粉末」をはじめとし、UGFや酵母、ムギ、粒エサなどの有効成分がたっぷり入った、非常に寄せ効果に優れた配合エサなんです。

具体的な釣りの流れを解説していくと、まずエサ取りの層を突破してオキアミと配合エサをチヌのタナに届けさせるために、「オカラだんご」の水分を吸うという性質を利用し、硬めにまとめて投入します。すると、エサ取りは強い集魚力にひかれ、深いところまで沈下を追っていきます。

このとき、仕掛けを沖めなり潮上な

りの、少し離れたところに投入します。そして再度エサを最初のポイントに撒くと、エサ取りはそれを狙って再び海面近くまで上がってきますので、そこで仕掛けを操作し、オキアミと配合エサの成分が効いているエリアに付けエサを届けるんです。時間差でエサ取りを分離してやるというわけですね。

冬

冬はタナが深いので、重さのあるブレンドに仕上げるようにします。具体的には、「チヌパワー日本海」1袋、「荒びきさなぎ(徳用)」を1/2、「1袋」、「チヌパワースペシャルMP」2袋に、「オカラだんご」1袋、そしてオキアミを3kgという感じですね。

このブレンドのキーになるのは、精選したさなぎを荒びきにした「荒びきさなぎ」です。動物性タンパクが豊富で、匂いも強い。チヌを寄せて活性を高めるために、すばらしい働きをしてくれますね。実際に、チヌもよく吸い込んでいます。

ただ、「荒びきさなぎ」は重さがないんです。ですので、しっかりと深いところまで届けてやる必要がある。ここで登場するのが、重さのある「チヌパワー日本海」。この配合エサは10秒間

冬のブレンドパターン(半日分)



チヌパワー日本海
1袋

+



荒びきさなぎ(徳用)チヌパワースペシャルMP
1/2 ~ 1袋

+



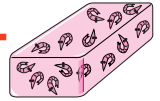
チヌパワースペシャルMP
2袋

+



オカラだんご
1袋

+



オキアミ
3kg

川原氏のホームグラウンドである瀬戸内は、型・数がともに見込める好フィールド。



に約3mも沈むほどなので、その重さはズバ抜けているといえますよね。なお、「オカラだんご」はまとまりをつけてタナでバラケさせるのと、濁りを出すために混ぜます。「チヌパワースペシャルMP」は、いうまでもなく集魚力を求めてですね。

■ 付けエサ

付けエサは、オキアミエサを年間通して用意しています。よく使つのは、「くわせオキアミスーパーハード」。食いがいい上にエサ持ちにも優れているので、重宝しています。フェロモンが

追加され、魚が本能的に食ってくる「くわせオキアミスーパーシャル」もお薦めですね。水温が高くてエサ取りが多いときは、練りエサも使います。「くわせ練りエサ・チヌ」や、「バラケネリックス(アミ)」などですね。

マルキューグッズ はみだし情報・5

PAライフジャケット

小物類が収納できるポケット、ブライヤーホルダーなどの便利なパーツを多数装備した多機能型ライフジャケット。高い安全性と心地よいフィット感を備え、背中に「MARUKYU」のロゴを入れたタイプも用意。カラーはブラックとネイビー、サイズはMLとし。

写真はブラック

国土交通省型式承認品



ジから出した段階では硬いんですが、揉んでやるとやわらかくなっていくんですよ。また、オキアミを一匹混ぜて練り込んだりするのも、有効なテクニク。オキアミの匂いがプラスされ、抜群に食いがよくなるんです。「バラケネリックス(アミ)」は、着水と同時に海水を吸って膨らみ始め、外側から徐々にバラケる性質をもった練りエサ。ですから、バラケる際の濁り効果で魚を寄せ、チヌに口を使わせるというわけなんです。食い込みやすいので、私はアタリがあったら即アワセるようにしていますね。